

委託事業実施内容報告書
平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム（B）】

実施内容報告書

受託団体名： 京丹後市国際交流協会

1. 事業名称

- ・多様な人材を活かした日本語教育整備事業

2. 事業の目的

- ・京丹後市の外国人数が約360人だったが、米軍のレーダー基地が建設されたことで、約500人に増加した。また、市内企業の技能実習生の国籍が中国からベトナムに変わるなど、これまでの外国人の状況から変化している。日本語教室にも、これまで日本語ゼロ初級の方の受講は少なかったが、今後は増加する見込みがある。

これまで以上に、日本語教育に対する行政、地域、企業などの理解を得ることと、外国人に対して、より学びやすい環境を整えることも重要となっている。

日本語上級者で、なおかつ地域に貢献したいという外国人やFMという広く情報を発信できる手段を使うことで、日本語学習環境を整えるとともに、日本語教育に関する市民の理解を深め、外国人との共生についても市民に身近に感じてもらえる体制を整える。

3. 事業内容の概要

- ・取組1として、地元FMを活用し、外国人と日本語指導者が日本語学習の番組を制作し放送する。この放送により、外国人への日本語学習環境を提供するとともに、日本語学習を市民に外国人が難しいと感じる言葉などを知ってもらい、“やさしい日本語”についても理解を求めらる。
- ・取組2として、外国人の日本語上級者が学習を進めてきた経験と、その際に感じたことを日本語指導者と意見交換を行い、教材や授業の進め方についてなど今後の課題等について検証する。
- ・取組3として、日本語読み書きを中心にした日本語教室を行う。会話はできても読み書きができない多くの外国人に対し、読み書きを学習する機会を提供する。
FM、企業、行政、市民など多くの方に関わってもらうことで、多文化共生、日本語教育の必要性や重要性について理解を得て、行政や協会主導でなく企業などでも日本語教育が提供できる体制が整う。

4. 事業の実施体制について

- ・FMたんご・・・ラジオ番組制作協力と番組の配信
- ・京丹後市・・・多文化共生推進協議会（仮称）と連携し、地域住民が期待する外国人との共生をともに考える
- ・市寄り添い総合支援サポートセンター・・・就業や自立のための条件等について情報提供

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

| | | |
|---|----------|----------------------|
| 1 | 新矢 麻紀子 | 大阪産業大学 |
| 2 | 近藤 徳明 | (公財)京都府国際センター |
| 3 | 川口 誠彦 | 京丹後市企画総務部 |
| 4 | 小谷 和彦 | 京丹後市寄り添い支援総合サポートセンター |
| 5 | 野口 ジャネット | 外国人市民 |
| 6 | 藤村 益弘 | 京丹後市国際交流協会 |
| 7 | 上田 美知子 | 京丹後市国際交流協会 |

【概要】

| 回 | 開講日時 | 時間数 | 場所 | 出席者 | 議題及び検討内容 |
|---|---------------------------------------|--------|--------|--|---|
| 1 | 平成 27 年 10 月 2 日(金) 14:00-16:45 | 2.5 時間 | 京丹後市役所 | 新矢 麻紀子 近藤 徳明 川口 誠彦 小谷 和彦 野口 ジャネット 藤村 益弘 上田 美知子 | 1. 事業計画について具体的な内容説明のあと委員との意見交換 |
| 2 | 平成 28 年 3 月 4 日(金) 14:00-16:35 | 2.5 時間 | 京丹後市役所 | 新矢 麻紀子 近藤 徳明 川口 誠彦 小谷 和彦 野口 ジャネット 藤村 益弘 上田 美知子 | 1. 事業報告について説明。 2. 今後の日本語教育について、連携団体等について |



6. 取組についての報告

取組1:FMを活用した日本語学習のすすめ

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・ FMを活用し、日本語学習について興味・関心を深め、今後、日本語教室での学習に繋げていくことを目的とする。これまでに日本語教室で日本語を学んだ外国人住民もラジオを通して、日本語に触れ、日本語により地域の情報とつながり、日本語教室に足を運びやすくする。また、地域の日本人住民に対しても、番組の広報に努め、地域に日本語を理解する外国人住民が多数いることを知ってもらい、外国人と日本語でコミュニケーションを取ることを恐れないよう、異文化理解と日本語教育に対する理解を広めることを目的とする。

(2) 取組内容

- ・ FMたんごの番組内で、やさしい日本語や多言語を使い、生活に密着した日本語を解説する番組を制作し、放送する。
放送内容について、日本語教育推進委員、出演する外国人などで検討する。
- ・ FMたんごで放送している行政情報をやさしい日本語で行う

(3) 対象者

- ・ ラジオ聴衆者

(4) 参加者の総数 6 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 人

【出身・国籍別内訳】

| 中国 | 韓国 | ブラジル | ベトナム | ネパール | インドネシア | タイ | ペルー | フィリピン | 日本 |
|----|----|------|------|------|--------|----|-----|-------|----|
| 1 | | | 1 | | | | | 2 | 2 |

※その他の国籍と人数:

(5) 会議開催時間数(回数) 20 時間 (時間 × 全 回)

ラジオ収録開催時間数(回数) 20 時間 (時間 × 全 回)

(6) 活動の内容

【会議開催】

| 回 | 開講日時 | 時間数 | 場所 | 議題 | 出席者 |
|---|------------------------------------|-----|--------|-------------------------|------------------------------|
| 1 | 平成 27 年 6 月 1 日 14:00~16:00 | 3 | 京丹後市役所 | 放送内容について検討 情報の選定 | 上田美知子 宮川優 劉玉萍 宇野レニー |
| 2 | 平成 28 年 1 月 15 日 13:30~16:30 | 3 | 京丹後市役所 | 放送内容について検討 情報の選定 | 宮川優 劉玉萍 宇野レニー |
| 3 | 平成 28 年 1 月 22 日 13:30~16:00 | 2.5 | 京丹後市役所 | 放送内容について 検討 情報の選定 | 宮川優 劉玉萍 宇野レニー |

| | | | | | |
|---|------------------------------------|-----|--------|-------------------------|------------------------------|
| 4 | 平成 28 年 1 月 29 日 14:00~16:00 | 2.5 | FMたんご | 放送内容について 検討 | 宮川優 劉玉萍 宇野レニー |
| 5 | 平成 27 年 2 月 8 日 14:00~16:00 | 3 | FMたんご | 放送内容について検 討 情報の選定 | 宮川優 劉玉萍 宇野レニー |
| 6 | 平成 27 年 2 月 1 日 14:00~16:00 | 3 | 京丹後市役所 | 放送内容について 検討 | 上田美知子 宮川優 劉玉萍 宇野レニー |
| 7 | 平成 27 年 2 月 26 日 14:00~16:00 | 3 | 京丹後市役所 | 取り組みについての 評価 | 上田美知子 宮川優 劉玉萍 宇野レニー |

【FM放送(収録)】

| 回 | 開講日時 | 時間 数 | 場所 | 受講 者数 | 取組の テーマ | 授業概要 | 発表者 |
|---|------------------------------------|---------|-------|----------|-------------------------------|--|--|
| 1 | 平成 28 年 1 月 18 日 17:00~20:00 | 3 | FMたんご | 5 人 | 「やさしい日 本語」の紹 介 | 「やさしい日本語」の紹介に ついて収録 | 宮川優 宇野レニー 藤村ケイトリン 劉玉萍 田中ルナ |
| 2 | 平成 28 年 1 月 27 日 17:00~20:00 | 3 | FMたんご | 5 人 | 「やさしい日 本語」の紹 介 | 「やさしい日本語」の紹介に ついて収録 行政情報をやさしい日本語で | 宮川優 宇野レニー 藤村ケイトリン 劉玉萍 田中ルナ |
| 3 | 平成 28 年 1 月 28 日 16:00~18:30 | 2.5 | FMたんご | 5 人 | 「日本語教 室」の紹介 | 「日本語教室」について収 録 日本語教室では、どんなこと が学べるのか等 | 宮川優 宇野レニー 藤村ケイトリン 劉玉萍 田中ルナ |
| 4 | 平成 28 年 2 月 3 日 16:00~18:30 | 2.5 | FMたんご | 5 人 | 「日本語教 室」の紹介 | 「日本語教室」について収 録 日本語教室で学習したことが 活かされた場面について | 宮川優 宇野レニー 藤村ケイトリン 劉玉萍 田中ルナ |
| 5 | 平成 28 年 2 月 10 日 17:00~20:00 | 3 | FMたんご | 5 人 | 「災害時に 使われる日 本語」の紹 介 | 「災害時に使われる日本語 の紹介」について収録 災害の種類、体験談等 | 宮川優 宇野レニー 藤村ケイトリン 劉玉萍 田中ルナ |
| 6 | 平成 28 年 2 月 17 日 17:00~20:00 | 3 | FMたんご | 5 人 | 「災害時に 使われる日 本語」の紹 介 | 「災害時に使われる日本語 の紹介」について収録 これだけは覚えよう！命を守 る言葉 | 宮川優 宇野レニー 藤村ケイトリン 劉玉萍 田中ルナ |
| 7 | 平成 28 年 2 月 24 日 17:00~20:00 | 3 | FMたんご | 5 人 | 「京丹後市 内のイベン ト情報」の 紹介 | 「京丹後市内のイベント情 報」について収録 ちりめん祭りのご案内 | 宮川優 宇野レニー 藤村ケイトリン 劉玉萍 田中ルナ |

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第1回 27年6月1日】

1 回目の放送内容検討の際に、地元のFMの周知度がどれくらいあるのか、まず調べるということ意見があった。また、伝えたい内容ばかりではなく、どう聞きたいと思う内容を盛り込むのかなどについて検討を行った。また、タイムリーな話題も入れたいが、準備などがどこまでできるかなどの課題があった。また、発表者を誰にするかということも検討した。

取組事例②

【第3回 28年1月28日】

「日本語教室」についての紹介では、外国人が日本語を勉強する目的、地域に与える効果などについて、「京丹後市多文化共生推進プラン」を基に紹介した。発表者はそれぞれの立場から、地域に貢献できないようなどについて発表した。

また、この回には、やさしい日本語だけではなく、発表者が英語、ベトナム語、中国語、タガログ語で日本語教室の申込み方法なども紹介した。



(8) 目標の達成状況・成果

※FMたんごに取組に理解をいただくことができ、放送時間を提供いただけるなど全面的に協力をいただいた。放送内容を検討する会議では、日本での生活が10年以上で、幅広い人脈を持つ外国人2人にも入っていただき、放送内容だけではなく、FM放送の周知についても議論いただいた。

当協会の会員さんが放送を聞き、「英語、中国語の単語が出てきたときはなんとなく分かったが、タガログ語、ベトナム語については、最初、どこの言語か分からなかった。日本語と多言語での内容が新鮮だった。」と感想が寄せられた。1日の放送に対して、リスナーから約10件、メールなどで感想などが届いたとのこと。

今回発表してくれた方からは、「とても緊張したが、内容が自分も知りたいと思う内容だったので、楽しかった。これからも、機会があればまた出演したい」と回答をいただいた。

(9) 今後の改善点について

※当初は27年度前半に行う予定だったが、他の事業などとの関係で遅くなったため、スケジュールが詰め込み気味であった。

放送を聞き逃したという人のための対策ができていなかった。今後は、facebookなどを併用し

て行うなど改善を行いたい。

取組2:外国人の視点を活用した日本語教育整備事業

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・外国人の視点を日本語教育に取り入れる。外国人の経験や学習への取り組み姿勢などを指導者と共有することで、より外国人が学習しやすい内容を提供できる仕組みを作る。
- ・外国人住民が将来的に指導者として教室支援のサポートを行えるような仕組みを構築する

(2) 取組内容

- ・外国人学習者（日本語能力上級な学習経験者含む）に、各教室の指導方法や指導教材を紹介。また、上級者には、自分が日本語指導者として活動してもらえるか、現在の指導方法やテキスト、学習者の状況を知ってもらった。会議名：「みんなで日本語考えよう会議」。
- ・学習者からの意見を、現在指導されているボランティアに共有した。また、学習経験者が指導者として活動する際の体制について検討を行った。会議名：「指導者育成検討会」2回

(3) 対象者

- ・日本語指導者（ボランティア）、外国人学習者

(4) 参加者の総数 36 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 19 人（元日本語学習者は含まず）

【出身・国籍別内訳】

| 中国 | 韓国 | ブラジル | ベトナム | ネパール | インドネシア | タイ | ペルー | フィリピン | 日本 |
|----|----|------|------|------|--------|----|-----|-------|----|
| 4 | 1 | | 4 | | | 1 | | 5 | 13 |

※その他の国籍と人数：アメリカ7人、パラグアイ 1人

(5) 開催時間数(回数)

- ・ 10 時間 （ 2 時間 × 全 5 回）

(6) 活動の内容

| 回 | 開講日時 | 時間数 | 場所 | 参加者数 | 取組のテーマ | 授業概要 | 指導者名 | 補助者名 |
|---|---------------------------------------|------|------------|------|-----------------|--|------|-------------------------------|
| 1 | 平成 27 年 7 月 29 日(水) 14:00-16:00 | 2 時間 | 峰山地域公民館 | 12 人 | 日本語学習経験者の意見を集める | 各教室の指導方法について紹介。 | | 上田美知子 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 2 | 平成 28 年 1 月 23 日(土) 14:00-16:00 | 2 時間 | 峰山地域公民館 | 20 人 | 日本語学習経験者の意見を集める | 教材選び、使い方について意見聴衆。 | | 上田美知子 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 3 | 平成 28 年 2 月 16 日(火) 19:00-21:00 | 2 時間 | 峰山地域公民館 | 14 人 | 日本語学習経験者の意見を集める | もし、自分が日本語を教えるとしたら。日本語母語ではないところの難しさについて。 | | 上田美知子 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 4 | 平成 27 年 10 月 3 日(土) 16:00-18:00 | 2 時間 | 峰山総合福祉センター | 21 人 | 学習者の視点を指導に取り込む | 7 月 29 日に日本語学習経験者から集めた意見について共有し、今のそれぞれの指導方法とのすり合わせを行う。 | | 上田美知子 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |

| | | | | | | | |
|---|---------------------------------------|------|--------|------|----------------------------|---|-------------------------------|
| 5 | 平成 28 年 3 月 11 日(金) 19:30-21:30 | 2 時間 | 京丹後市役所 | 14 人 | 学習者の 視点を指 導に取り 込む | 1 月 23 日・2 月 16 日に日本 語学習経験者から集めた意 見について共有し、今のそれ ぞれの指導方法とのすり合 わせを行う。 | 上田美知子 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
|---|---------------------------------------|------|--------|------|----------------------------|---|-------------------------------|

(7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

取組事例①

【第3回 28年2月26日】

これまで、日本語教室で学習してきた方（上級者）にもし、自分が日本語を教えるとしたらをテーマに議論してもらった。この回は、非漢字圏の方が多かったので、漢字の楽しさに気づいた瞬間の話などを聞くことができた。形と音と意味を表す漢字を覚えることは、確かに難しいが、1つの漢字を覚えると、その漢字を使った言葉も覚えることができるので達成感が多いという意見が多く聞かれた。

また、漢字については、テキストの順番どおりに教えてもらうより、普段の生活でよく見かける漢字から教えてほしいという意見があった。中でも、日本語を学ぶ際、最初に教わる漢字は、街中でみかける、お店の漢字が知りたかったという意見がおおかった。例えば、“薬”“酒”などお店の前に大きく書いてある看板が読めるようになった際に、自分が少しでも日本語が習得できてきたという自信に繋がった経験があるという意見があった。

他には、教室の最後に、少しでも確認のテストをしたら、覚えた漢字の積み重ねが目に見えて残るのでやっではどうかという意見があった。

以前の会議で、指導者は日本語で話すときに、褒めてくれるが、外国人に慣れていない人が自分の言葉を理解してくれるか不安になるという意見があったことについて、逆に自分たちも日本人が英語で話すと、下手でも褒めるので、気にしなくて良いという意見が多かった。



取組事例②

【第5回 28年3月11日】

日本語学習経験者から集めた意見について報告し、今のそれぞれの指導方法とのすり合わせを行った。漢字の指導方法については、まず、自分の名前、住所を教えたあとは、テキストの順番に沿って教えているという方が多かったので、今後は、漢字を教える際には、テキストからというより、学習者の生活スタイルから習得する漢字をテーマ別のリストや教材、確認テストを作成し、それぞれの教室で共有できるようにしていくこととなった。

また、日本語上級レベルの外国人を指導者とする体制については、発音の教え方などについては、日本人の指導者と一緒に教えるほうが良いなどという意見が出された。発音以外に部分では、積極的に指導者側へ加わってほしいという意見が多かった。



(8) 目標の達成状況・成果

- ・すべての会議に中心メンバーが参加され、会議を進め参加者の誰もが発言しやすいよう、一人が司会進行をするのではなく、4人が上手く会議を進められた。また、学習経験者の意見をまとめ、指導者側の会議で発表された。

また、日本語上級者が指導者として活動できるかについては、上級者（中国2人・フィリピン2人・ベトナム1人）外国人から母語が同じで日本語ゼロ初級の人へなら教えてみたいという意見が多かった。しかし、現状では仕事と家庭で精いっぱいなところがあるので、継続性の活動は難しいが、短期間や単発でできることは協力したいという意見があった。

(9) 今後の改善点について

- ・「指導者育成検討会」に外国人雇用企業の人事担当などにも参加していただきたいと思っていたが、業務の都合もあり、参加していただくことができなかった。

外国人学習者の意見を聞く際に、当初は日本語指導者も一緒に集うことを検討したが、意見の取りまとめ役から、日本語指導者が多くいると、なかなか本音と言えないのではということがあり、指導者側はまとめ役だけが参加した。このことで、学習者の視点をより聞き出すことができた。また、今後は、日本語上級レベルの外国人が指導を体験する場を試験的に設けたい。その様子をケーブルテレビなどでも周知し、多文化共生プランの中の“外国人市民の自立と社会参画”を進めていく。

取組3: 日本語の読み書きを中心にした日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・会話ができるために、読み書きの必要性をあまり感じていない外国人へ日本語の読み書きを学んでもらう。

(2) 取組内容

- ・外国人住民が関わる行政機関（就業に向けて必要となる読み書きの具体的な内容などをハローワークや寄り添い支援総合サポートセンター等）から事前にヒアリングを行い、読み書きの必

要性が高い場面や範囲・教材を検討する。

- ・学習者の情報（名前、住所、家族構成）や家族の情報について書けるよう学習を行う。
 - ・取組2で、外国人からの意見を考慮し、必要な日本語の読み書きを学習する。生活していく上で、よく見かける文字について、正しい読み方を学ぶ（例えば、スーパー→生鮮食品、日用日、値引きなど）。文字を書くことについては、ひらがな、カタカナ、漢字を一緒に学ぶ（住所、氏名、家族構成、など、ライフスタイルの中で記入することが多い項目）
- 取組2で、外国人が読めないことで不便を感じているかなどについても把握し、この日本語教室に反映する。
- ・また、この事業を進めるにあたり、地域に専門家がいないことから、外部の専門家を招き、日本語の文字導入の効果的な指導方法等について指導者に対し、事前研修を行う。

(3) 対象者

- ・市内在住外国人（市外からの参加も可）

(4) 参加者の総数 45 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載
そのうちの日本語学習者数 24 人

【出身・国籍別内訳】

| | | | | | | | | | |
|----|----|------|------|------|--------|----|-----|-------|----|
| 中国 | 韓国 | ブラジル | ベトナム | ネパール | インドネシア | タイ | ペルー | フィリピン | 日本 |
| 5 | | | 4 | | | 1 | | 9 | 21 |

※その他の国籍と人数：アメリカ4人、イギリス 1人

(5) 開催時間数(回数)

・ 65 時間 （事前研修:5 時間×1 回 ・ 日本語教室:3時間×20 回 ）

(6) 活動の内容

| 回 | 開講日時 | 時間数 | 場所 | 受講者数 | 取組のテーマ | 授業概要 | 指導者名 | 補助者名 |
|------|-----------------------------------|-----|------------|------|-----------------------|--|-------|----------------------|
| 事前研修 | 平成27年 10月3日(火) 13:00-16:00 | 5時間 | 峰山総合福祉センター | 21人 | 外国人への文字指導のポイント | 日常生活から漢字指導を考える | 新矢麻紀子 | |
| 1 | 平成27年 10月13日(火) 13:00-16:00 | 3時間 | 峰山地域公民館 | 11人 | 自分の名前や住所、ひらがな、カタカナの習得 | 文字を見分ける ひらがな、カタカナ、漢字交じりの文中から漢字を拾いだす | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 2 | 平成27年 10月20日(火) 13:00-16:00 | 3時間 | 峰山地域公民館 | 10人 | 自分の名前や住所、ひらがな、カタカナの習得 | カタカナを覚え、カタカナを使って書く 自分の住所と名前 | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 3 | 平成27年 10月27日(火) 13:00-16:00 | 3時間 | 峰山地域公民館 | 11人 | 自分の名前や住所、ひらがな、カタカナの習得 | カタカナ復習 家族の名前をカタカナで書く | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 4 | 平成27年 11月10日(火) 13:00-16:00 | 3時間 | 峰山地域公民館 | 11人 | 自分の名前や住所、ひらがな、カタカナの習得 | ひらがなを覚え、ひらがなを使って書く じぶんの名前と住所 | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |

| | | | | | | | | |
|----|--|------|---------|------|-----------------------------------|--|-------|----------------------|
| 5 | 平成 27 年 11 月 17 日(火) 13:00-16:00 | 3 時間 | 峰山地域公民館 | 11 人 | 自分の名前 や住所、ひ らがな、カタ カタの習得 | ひらがな復習 家族の名前をひらがなで書く | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 6 | 平成 27 年 11 月 24 日(火) 13:00-16:00 | 3 時間 | 峰山地域公民館 | 10 人 | 自分の名前 や住所、ひ らがな、カタ カタの習得 | 漢字で自分の名前を書と住 所を書く | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 7 | 平成 27 年 12 月 1 日(火) 13:00-16:00 | 3 時間 | 峰山地域公民館 | 11 人 | 自分の名前 や住所、ひ らがな、カタ カタの習得 | ハガキ、封筒、各種書類に自 分の名前、住所を漢字で書く | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 8 | 平成 27 年 12 月 8 日(火) 13:00-16:00 | 3 時間 | 峰山地域公民館 | 11 人 | 自分の名前 や住所、ひ らがな、カタ カタの習得 | 漢字の基本(音読み、訓読 み) 家族の漢字での表記を覚え て書く | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 9 | 平成 27 年 12 月 15 日(火) 13:00-16:00 | 3 時間 | 峰山地域公民館 | 10 人 | 自分の名前 や住所、ひ らがな、カタ カタの習得 | 月と曜日の漢字を覚える | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 10 | 平成 27 年 12 月 22 日(火) 13:00-16:00 | 3 時間 | 峰山地域公民館 | 11 人 | 自分の名前 や住所、ひ らがな、カタ カタの習得 | ひらがな、カタカナ漢字を使 って、簡単な自己紹介文を書 く | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 11 | 平成 27 年 10 月 13 日(火) 18:00-21:00 | 3 時間 | 峰山地域公民館 | 12 人 | 生活の中の 漢字を習得 | 自己紹介 自分の名前、住所、年齢、性 別を書く | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 12 | 平成 27 年 10 月 20 日(火) 18:00-21:00 | 3 時間 | 峰山地域公民館 | 13 人 | 生活の中の 漢字を習得 | 病院を受診するための漢字 診察科に使われる漢字 | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 13 | 平成 27 年 10 月 27 日(火) 18:00-21:00 | 3 時間 | 峰山地域公民館 | 13 人 | 生活の中の 漢字を習得 | 病院を受診するための漢字 薬の処方についての漢字 | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 14 | 平成 27 年 11 月 10 日(火) 18:00-21:00 | 3 時間 | 峰山地域公民館 | 13 人 | 生活の中の 漢字を習得 | 病院を受診するための漢字 薬の処方についての漢字② | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 15 | 平成 27 年 11 月 17 日(火) 18:00-21:00 | 3 時間 | 峰山地域公民館 | 13 人 | 生活の中の 漢字を習得 | 市役所の窓口で使われてい る漢字 受付、各窓口、ごみの分別の 漢字 | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 16 | 平成 27 年 11 月 24 日(火) 18:00-21:00 | 3 時間 | 峰山地域公民館 | 12 人 | 生活の中の 漢字を習得 | 市広報の漢字を読む | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 17 | 平成 27 年 12 月 1 日(火) 18:00-21:00 | 3 時間 | 峰山地域公民館 | 13 人 | 生活の中の 漢字を習得 | 保育所、学校からの手紙の 漢字を読む 子どもの様子を書く | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 18 | 平成 27 年 12 月 8 日(火) 18:00-21:00 | 3 時間 | 峰山地域公民館 | 11 人 | 生活の中の 漢字を習得 | 料理・買い物で使う漢字を覚 える 売り場、商品表示を読む | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 19 | 平成 27 年 12 月 15 日(火) 18:00-21:00 | 3 時間 | 峰山地域公民館 | 13 人 | 生活の中の 漢字を習得 | 求人情報の漢字を読む 履歴書を書く | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |
| 20 | 平成 27 年 12 月 22 日(火) 18:00-21:00 | 3 時間 | 峰山地域公民館 | 13 人 | 生活の中の 漢字を習得 | 確認のテスト、各自で評価 | 上田美知子 | 朝日恵子 瀬川純子 東村幸子 |

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第1回 27年10月3日】

新矢麻紀子先生を講師に招き、指導者向けの研修会を開催。学習者の文字レベルの図り方や身近な生活用品の中から漢字を指導する方法のワークショップを行った。

普段、テキストを使っでの文字指導が多い指導者が、食品表示や日常でよく使うポットや炊飯器などを使い、実際に教える際の教材を作成。

参加者からは、「これまでは、簡単な漢字から教えることが効果的かと思っていたが、今回、身近な物の漢字が読めるようになることで、学習者の生活の質まで変わってくるということに気づいた。」と感想が寄せられた。



取組事例②

【第10回 27年12月22日】

初級レベルの最終回。これまで学習してきた内容を踏まえ、学習者が簡単な自己紹介文を書いてみた。初級レベルの中でも学習者のレベルはさまざまだったので、各自の能力で書けた文章を指導者にチェックをしてもらった。

学習者のこれまでの学習経験の違いもあり、書くことに慣れている参加者と文字を書くこと事態あまり経験されていない学習者とは、習得に差はあったが、家族の名前を含めたりしながら、全員が文章を書き上げた。



(8) 目標の達成状況・成果

- ・参加者にこれまで読み書きができないことで、困ったことはどれくらいあったかということを知ると、あまりなかったという方が多かった。その場合は、配偶者や家族の方のフォローがあり、読むことや書くことは全て任せてきたという人が多かった。今回、参加された理由についてアンケートを見ると、初級レベルの参加者からは、読み書きができないことで、昼

間の仕事に就くことができなかつたので、勉強しようと思ったという方が多かつた。
昨年の反省を踏まえ授業内容に、書く時間もしっかり設けたことで、今後の学習に繋がるかという項目では、どちらのレベルの方から、「家では集中して文字を練習できないので、これからも教室で勉強したい」という回答があり通常の日本語教室へも繋ることができた。

(9) 今後の改善点について

- ・指導の中で、漢字をへんにつくりで関連づけて覚えているものもありましたが、応用となると難しいようで、交通・通学・学校・高校のように1文字変えると読めないことがあるようで、前の回に学習した文字を開始前に復習してから始めることを取り入れた方が良かった。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

- ・京丹後市の外国人数が約 360 人だったが、米軍のレーダー基地が建設されたことで、約 500 人に増加した。また、市内企業の技能実習生の国籍が中国からベトナムに変わるなど、これまでの外国人の状況から変化している。日本語教室にも、これまで日本語ゼロ初級の方の受講は少なかったが、今後は増加する見込みがある。

これまで以上に、日本語教育に対する行政、地域、企業などの理解を得ることと、外国人に対して、より学びやすい環境を整えることも重要となっている。

日本語上級者で、なおかつ地域に貢献したいという外国人やFMという広く情報を発信できる手段を使うことで、日本語学習環境を整えるとともに、日本語教育に関する市民の理解を深め、外国人との共生についても市民に身近に感じてもらえる体制を整える。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

- ・各取組を通して、これまで日本人の視点だけで事業を進めてきたが、外国人も加わってくれることで、新しい気づきも多くあり、市が掲げる多文化共生社会の推進に繋がった。

FMの周知については、外国人のFacebookグループで周知をしてくれるなど、自分たちで発信していくという役割を担っていただき、また、今後もFMと協力して番組作成などにも加わるなど社会参画を進められ、また、行政や当協会が主導で行うのではなく、地元の関係団体と外国人が協働で進める体制が作られた。

また、日本語学習についても、広報活動などによって、年々学習者が増えてきている。米軍関係者の申込みも増えている。このことを広報活動によって市民に発信し続けている。

(3) 地域における事業の効果、成果

- ・今回は外国人が取組の運営側に入ってくれたことで、これまでは、“日本人から外国人に対して行う”というイメージが、“日本人+外国人=地域住民”ということがお互い認識でき、そのことを市広報誌などでも紹介することができた。

多文化共生推進ワークショップを開催した際には、行政職員、市議会議員、不動産業者、介護業者、一般市民も参加され、その中で学習経験者である外国人が日本語で事例紹介を行った際に、“日本語を勉強したからいろいろな仕事にも就くことができた”と話された。ワーク

ショップのアンケートに、“活躍できる人材の育成に日本語教育は必要！”“過疎化で人口が減っていく中、定住してくれる外国人は地域の大事な人財。これからも応援していきたい”などと感想が寄せられるなど、幅広い職種の方にも日本語教育の必要性を伝えることができた。

(4) 地域の関係者との連携による効果, 成果

- ・ 行政との連携で、事業の際の公共施設の使用料を免除していただいた。また、地元コミュニティ FM から全面的に支援が得られたことは大きな成果。
また、就業支援を行う、寄り添い支援総合サポートセンターからは、今後も継続して外国人の就業への取り組みを一緒に行い、各ケースに合わせ対応していただくことができる体制が整った。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- ・ 今年度も、市から外国人リストをもらい、全員に周知を行った。
今後も、協会の活動を通じて、市の全面的な協力を得て、市広報、ケーブルテレビなどで外国人の活躍する姿の周知に努め、また、多文化共生の事業の一環として、各関係機関に“やさしい日本語”の周知も行っていく。

(6) 改善点, 今後の課題について

- ・ 外国人の視点を取り入れることで、普段の情報の得方なども知ることができた。外国人へチラシを発送する際には、封筒に入れて送るが、自分宛ての手紙でも開けることが少ないという人が多かった。せっかく多言語でチラシを作っても目に付かないとのことだったので、今後はハガキなど、直接、目につくような方法に変更する。